

WEEKLY REPORT

ISSUE 2026/2/2 VOL.1388 No.21

よいことのために手を取りあおう

2025-26年度RI会長
フランチェスコ・アレッツオ

本日のプログラム

卓話 「ロータリークラブへの期待」

株式会社かわたに事務所 川谷 和也 様



「少しの成長から始まります」
2025-26年度2700地区がバナ
瀬野良彦

【会長の時間】

本日は、今年2026年、丙午（ひのえうま）を題材に、少しお話をさせていただきます。

「丙午」と聞くと、昔の迷信を思い出される方も多いと思います。丙午の年に生まれた女性は気性が激しく、夫の命を縮める今の時代では笑い話ですが、かつては本気で信じられていました。

有名なのが1966年、昭和41年の丙午です。この年、日本の出生数は前年より約25%も減少しました。病気が流行ったわけでも、不況だったわけでもありません。理由はただ一つ、「丙午だから、今年はやめておこう」。全国で同時多発的に、計画的少子化が起きたわけです。

考えてみるとすごい話です。カレンダーの干支が、ここまで社会を動かした年は、後にも先にも丙午くらいではないでしょうか。

では、丙午生まれの方は本当に怖いのか。実際には、非常にたくましく、行動力があり、経営者やリーダーとして活躍している方も多い。数が少ない分、「私は生き残った世代だ」という自覚があるのかもしれません。

そして今年、2026年。60年ぶりに丙午が巡ってきました。さすがに今は、出生数が激減することはないと思います。ただ、親御さんよりも、周囲の年配の方がソワソワしている、という話は聞こえてきます。「昔はね…」と語り始める方がいたら、それは丙午の副作用です。

この話から学べるのは、迷信そのものよりも、人は不安になると、合理的でないことでも信じてしまうということです。情報が少なかった時代は迷信、情報が多くなる現代では噂やデマ。

形は違っても、人の心理はあまり変わっていないかもしれません。

60年後、今の私たちの常識が、「2026年って、そんな



こと信じてたんですか？」と笑われる日が来る可能性もあります。

ちなみに、今年生まれる丙午の皆さん。どうぞご安心ください。気性が激しいどころか、これから時代を生き抜く、たくましく、賢く、そして周囲に愛される存在になるはずです。少なくとも、今日ここにいる私たちの命を縮めることはできません。

以上、丙午の年だからこそ、少し肩の力を抜いてお話しさせていただきました。

【幹事報告】

①来週2/2の例会は、つくばシティRCの皆様がお見えになります。例会には22名以上の方が参加予定です。2/2夜に歓迎会、翌2/3にゴルフ会を予定していますので、よろしくお願い致します。



②第3期会費の納入期限は、今月末です。お間違えのないようお願い致します。

③2/2の例会終了後、理事会を予定していますので、対象者はご予定下さい。

以上



卓 話

「土と生きる、用と美の世界」

～400年前の陶片が連れて行ったアメリカ・ボストンでの武者修行とそれから得たもの

陶芸家 高鶴 大様

私は代々焼物を作つてまいりました福岡県は今の福智町、上野（あがの）焼の家系の出でございます。しかし身近なものほど本当の良さやその価値を見出しおく、スポーツ三昧だった私自身と無理に強制しなかつた親も相まり幼い頃は陶芸に興味が湧きませんでした。大きな転機が訪れたのは父が若い頃400年前の上野、高取焼系の窯跡から発掘した陶片をもとに自宅に作っていた資料室を見に来られたハーバード大学の先生が父を客員教授として招いたのです。この教授との出会いと無名陶工達が苦労し、しかし焼きで失敗し土に埋もれていた数々の陶片が私達を海外移住させたのでした。この陶片達が私の原点であり、私の好きな言葉の1つに「温故知新」があります。まず基礎をしっかりと学び、そして現代の形を生み出すという考えに共感します。上野焼は、当時の茶道ブームを受け細川藩の元、国産の茶陶道具作りに力を入れ名品ともなると一国にも値したといいます。茶会には多くの道具が必要であり窯のサイズも巨大化し長さ40メートルを越すものも作られました。画像のような大きな登り窯は朝鮮半島から導入された日本でも最新の技術で全国から注文が来ました。そして今と大きく違うのは女性ではなく男性が行っていたという点でしょうか。時代が人、物を作ると言いますが陶器を見るとそれが良く見えます。お茶碗、水指など当初は造形的に力強く、千利休の後を継いだ古田織部は京都から上野、高取焼に沢山の品をオーダーしています。彼は今で言うデザイナー的存在と言え最初は丸く作った茶碗をわざと歪ましたりと、一見使いにくそうですがいざ手に取ると実際に良く考えられて作られた形だという事がわかります。使って初めて分かる良さ、お碗の表、裏があり飲むのに一番適している箇所が手前に来るようになっております。ちゃんと織部は利休の基礎の上に「温故知新」の精神でお茶の文化を発展させて行つたのでした。そして武士の時代が終わり平和な時代に移ると器の形も優しく、繊細になりました。私事ですが大丸デパートにあるKUJAKU SALONにて先ほどお話を陶片を私が現代の窯で焼き、手直しし400年前の色が蘇り現代でも使えるお菓子皿として楽しんでいただいています。1つと同じ物がない「一期一会」の出会い、そしてSDG的要素も含め使い捨てではなく物を長く大事に使う考えも含め制作しました。使い易いのはもちろん、それプラス心を打つ何かが大切だと私は考えます。陶芸、芸術全般、あらゆる世界でも言える事かもしませんが、技術（知識）は何十年か続けていなければならない程度だれども上手になります。綺麗に作るだけなら今は機械が作ってくれます。私は陶芸にたどり着く前に



絵、彫刻、写真と経験して来ましたがそれらの要素は全て陶芸で生かされています。私たちが生きているこの時代そして将来に益々必要になるのは生の人間の温かい感性、無駄とも取れる「遊び心」で、私は今の若い世代にあまりにも失敗を恐れないでほしいと伝えたいです。陶芸で言うと薪で焼く窯は100%コントロールするのは不可能な自然との共同作業なので何割かは破れたり上手く焼けなかつたりします。それでもそれらの作品からも学ぶ事があり失敗ではなく先に繋がるプロセス（過程）だと受け取り、たまには思いもよらないアクシデント的な二度と出来ない作品も生まれたりします。回り道、道草に見えるかもしれない効率性だけでは得られない感性が後々仕事で行き詰った時に生きてくると経験しました。太古から日本人はコントロールできない自然を恐れながらも恵みを頂き共存してきました。西洋では人間が自然より上の立ち位置ですが日本では自然と対等という感覚を受けます。今の私たちの感覚とはもちろんかなり違いますがあの彫刻のような躍動感あふれる縄文時代の器も鍋物の器として使われたそうで、あれこそ究極の用と美の賜物でしょう。比べ今日の器はどうやらかと言うとシンプルで機能的要素を重視する傾向にあります。

私は海外に住む事によって客観的に日本を見るようになり、さらに日本人としての自覚が深まりました。日本には多くの海外の方が来日されています、そしてさらに移住される方も増えてきています。日本が将来輝き続けるには何をしなければならないのか？この国の魅力とは？個性に重点を置く海外と和を重んじる日本、お互い理解を深め、助け合い、争いの無い世界にしていくには日本の和の精神、心の栄養である芸術、文化が最終的には不可欠な要因になってくると確信しています。

卓話同伴者：高鶴 昂 様



今後の予定

2月 「平和と紛争予防・紛争解決」月間



- 2日（月）例会・理事会（次年度委員メンバー選考）
 9日（月）休会（祝日の週）
 14日（土）IM
 16日（月）例会
 23日（月・祝）休会（天皇誕生日）

3月 「水と衛生」月間



- 2日（月）例会・理事会
 6.7.8日（金土日）地区大会
 9日（月）例会
 16日（月）休会（祝日の週）
 23日（月）例会
 30日（月）観桜会（夜間例会）

4月 「環境」月間



- 6日（月）例会・理事会（次年度運営方針予算検討）
 13日（月）例会
 20日（月）例会
 27日（月）休会（祝日の週）

2/14（土）開催 IMとは、、、、、、

Intercity Meeting（都市連合会）。会員相互の親睦と知識を広め、会員にロータリー情報を伝え、立派なロータリアンを育成するという目的で、サンフランシスコRCとオークランドRCの間で始まったそうです。日本では1926年に初めて開催されました。以前はIGF（Intercity General Forum）やICGF（Intercity and Club General Form）と呼ばれる地区行事でしたが、1969年にRIの正式行事から除外され、それ以後、実施するか否かはガバナーの裁量に委ねられることになりました。その後、IM（Intercity Meeting）と呼称変更され現在に至っています。2700地区第4グループ内の11クラブが参加します。

日 時：2月14日（土） 13：30～～17：10 懇親パーティー17：30～18：30

会 場：太宰府天満宮 余香殿（懇親パーティー 太宰府館）

テー マ：「奉仕のバトン～受け継ぎ、育み、未来へ歩む」

- ・第1部 基調講演 講師：太宰府天満宮 最高顧問 西高辻信良 様
- ・第2部 基調講演 講師：独立行政法人九州国立博物館 初代館長 三輪嘉六 様

3/6-8（金・土・日）開催 地区大会とは、、、、、、

2700地区内61クラブの全ロータリアンとその家族が参加できる年次会合です。この大会は、ロータリーへの参加意欲を高め、協力関係を強化し、ロータリーが世界にもたらす影響を紹介することを目的としています。年に一度の特別なイベントで、参加の皆さんにとって多くの学びと出会いがあります。他クラブのメンバーとの交流や、既存の仲間との絆を深めたり、各クラブの活動や地区の取り組みについて情報交換ができます。大会では、ロータリーに関する講演やセミナーが開催され、ロータリーの最新情報や活動方針を知ることができます。本年度の記念講演は、ジャーナリストの門田隆将氏です。



ニコニコ箱報告

2026年1月26日



榊・吉永・石橋会員／1月生まれ誕生会の方、おめでとうございます。健やかで、素晴らしい一年をお送りできるよう、お祈り申し上げます。

諫山会員／1月16日に新会員研修会を開催しました。懇親会ご参加の皆様からニコニコ寄附を頂きました。ありがとうございます。

松田会員／今日の朝は、今シーズン一番の冷え込みとなりましたが、まだまだ寒い日が続きますので、皆さん、風邪をひかないよう気をつけてください！

柴田会員／傘寿御祝い ありがとうございました。

鈴木会員／寒い日が続きます。体調にきをつけましょう。

高田徹会員／高鶴様、本日の卓話、楽しみにしています。どうぞよろしくお願ひ致します。

ニコニコ箱 本日計 10,300円／本年度累計:572,650円

出席報告(1/19) 会員数51

免除会員 3名
出席者 33名

出席義務会員 48名
出席率 65.0%



国際ロータリー第2700地区 第4グループ 福岡平成ロータリークラブ

2025-26年度 会長 榊 宏昭 幹事 吉永裕介 会場監督 石橋千明
事務局 福岡市中央区渡辺通5丁目23-2 東急ドエルアルス天神 307号 〒810-0004

Tel.092-716-8091 Fax.092-716-8092

ホームページ www.fukuoka-heisei.gr.jp メール info@fukuoka-heisei.gr.jp

◆例会場変更のお知らせ ※サイン可

福岡北RC	2月6. 20日 (金)
福岡城東RC	2月 7日 (土)
福岡イズミング RC	2月 9. 16日 (月)
福岡東RC	2月12日 (木)
福岡東南RC	2月13日 (金)
福岡城南RC	2月25日 (水)

◆休会のお知らせ ※サインはありません

博多RC	2月10. 24日 (火)
福岡城西RC	2月10日 (火)
福岡南RC	2月12日 (木)
福岡北RC	2月13日 (金)
福岡城東RC	2月14日 (土)

■今後の予定

フードロス対策のため、
事前出欠を取ります。

毎週木曜15時までにご連絡ください。

2月 9日 (月) 休 会

2月16日 (月) 例会

卓話 LEARN代表 下岸 千恵 様
(タイトル未定)

2月23日 (月・祝) 休 会

3月 2日 (月) 例会

卓話 「あなたの街のオーケストラ
～九州交響楽団の取組み～」
公益財団法人 九州交響楽団 専務理事
本田 一郎 様